

第1章 森林整備等による地域活性化の事例

全国の様々な活動組織が実施する、地域の里山林の自然を活かし、地域の活性化につながる取組を紹介します。



1. 森林の利活用によるにぎわい・交流

森林を整備し、住民が集う、楽しむ場として活用

松戸里やま応援団 樹人の会（千葉県）竹

活動組織は、市が毎年度開講する「里山ボランティア入門講座」の修了生で構成されています。都市開発によって残存した市内の里山林の荒廃が進んでおり、「野うさぎの森」を整備することで、森林動植物の生息地の維持と市民が自然を楽しむ森づくりを行っています。

当会は松戸市主催の「オープンフォレスト」において、保全林の紹介等を行ったことで、活動が市民に理解され、新たな会員の活動への参画にもつながっています。



オープンフォレスト開催の様子

森林が整備されたことで、地域の交流も生まれつつあります。活動対象の竹林で七夕竹の伐り出しを行ったことをきっかけに、地域のお母さんたちのグループ「読書応援団」との交流が生まれ、「読書応援団」は整備した森林を活動拠点として利用し始めました。林内は活動のための話し合いの場や本について語り合う「森でのブックトーク」の場として利用されています。



お母さんたちによる「森のブックトーク」



森林整備前



森林整備後